

2011年5月11日(水) 16:00-17:00 日本記者クラブ  
池内恵(東京大学・先端科学技術研究センター・准教授)

## エジプト移行期政治プロセスの進展と中東政治の再編

### 1. エジプト移行期政治プロセスへの注目

- (1) 対アラブ諸国のモデルとして  
⇔ サウジ・モデル、リビア・モデル、シリア・モデル?
- (2) 米・英・仏の国際関与への指針として  
「アラブ民主化」の試金石

### 2. 主要な注目点

- (1) 移行期プロセスの力学
  - ① 「大規模デモ」の構成勢力
  - ② 国軍最高評議会と旧体制
  - ③ ムスリム同胞団宗派間関係  
外交
- (2) 日程: 9月の議会選挙・11月?の大統領選挙・憲法改正(その前後)
- (3) 選挙方法  
小選挙区制か政党リスト制か 「翼賛議会」「政権党」を排除できるか  
ムスリム同胞団・旧NDP: 小選挙区制  
若者勢力・知識人: 政党リスト制(そもそも議会選前の憲法改正要求)
- (4) 旧政権既得権益集団→アムル・ムーサが実質上候補  
ムスリム同胞団指導部→「キング・メーカー」に?  
ムスリム同胞団の若手・中堅→アブドルモネイム・アブルフトーフ(復興党)への期待  
若者組織の実力と思想  
サラフィストの攪乱

### 3. 重要事象

- 3月19日 憲法改正国民投票 77.2%賛成  
3月28日 政党法改正 申請届け出制、5000人党員、10県  
4月1日(金) 「革命を救うデモ」 軍への不満・不信が顕在化  
4月8日(金) 「粛清デモ」 国軍最高評議会との対決姿勢鮮明に→翌朝の衝突  
4月10日(日) ムバーラク録音声明放映(アル=アラビーヤ)  
4月13日 ムバーラク父子逮捕  
4月16日 18人の新知事任命・宣誓(27知事中、9人が軍人、8人が警察官僚)  
4月27日 ファタハ・ハマース和解合意(カイロ)→5月4日調印  
4月30日 ガザ封鎖緩和・国境開放の意向  
4月29-30日 シューラー評議会開催(1995年以来)→自由正義党幹部を指名  
5月7日(土) 宗派間衝突(カイロ)

### 3. 若者勢力の組織化と分裂

- 「革命若者連合」ゆるい連合 4月1日・8日に最大勢力→分岐  
4月6日若者運動

ムスリム同胞団若手

#### 4. 国軍最高評議会の性質

最も整った官僚社会でのエリート＝非政治化の傾向

「ムバーラク切り捨て」の困難

憲法改正にみる政治力・理念の空白

「反革命」？ 旧政権高官、サラフィストとの関係

外交姿勢

#### 5. ムスリム同胞団の組織化と分派の動き

自由正義党設立

ムハンマド・モルスィー党首、イサーム・アラヤーン副党首、サアド・ケタトニー幹事長

ムスリム同胞団の組織：統制と独裁・権威主義、世代交代の不全

意思決定過程への若者からの批判→別政党・別候補の動き

どれだけ議席を取れるか（目標の上方修正 30→50%）

#### 6. 宗派紛争の危機

「サラフィスト」の動向

宗派紛争の基本構図 非対称的關係 キリスト教徒の間の普遍的人権意識（「大規模デモ」の背景と共通）

アブド・ズムルと従兄まで釈放

改宗問題をきっかけに宗派紛争の危険

#### 7. エジプト外交の新展開

「民主主義国家における外交」

ナショナリズムの後押し

①対イラン友好姿勢・国交回復か？（4月4日 エル・アラビー外相「イラン関係に新しい頁」）

②対イスラエル天然ガス輸出再交渉の方向へ

③ハマースとファタハの挙国一致政権仲介（シリアの影響力が低下）

④ガザ封鎖解除の意向

#### 8. サウジ・モデルとの対比・競合

（1）新「アラブ冷戦」？（1958年－60年代前半、ナセルのアラブ民族主義とサウジ）

サウジの「反革命」介入への警戒・批判

⇔サウジはエジプトの大規模デモ輸出・対イラン接近に警戒

（2）「サウジ・モデル」があるならば

ばらまき・弾圧

メディア統制・操作→「関心を逸らす」

リビア、シリアを「差し出す」

イエメンには「仲介」

アル＝ジャジーラとアル＝アラビーヤの報道姿勢

（3）エジプト内政の進展と共に、エジプトの仲介外交、エジプトのメディアの進展に注目

【参考】池内恵「エジプトが歩む移行期政治プロセスの緊張」『フォーサイト・ウェブ版』

池内恵「カイロからアレクサンドリアへ——革命の政治地理学」『フォーサイト・ウェブ版』

<http://www.fsight.jp/article/10373>

<http://www.fsight.jp/article/10392>